

地球を読む



「世の人の心をつぶさに調べるなら、お前はほとんどが醜いを見いだすことだろう」(アルタルコス「モリア6」より)

こう述べたギリシャの悲劇詩人ソポクレスでさえ、イスラエルのネタニヤフ首相の心の奥をのぞいたなら、ただ「醜い」とだけ断じることに虚しさを感じるのではないか。

ネタニヤフ氏は8月10



山内 昌之

富士通FSC特別顧問

イスラエル

終わらぬ戦争 首相の保身

「世の人の心をつぶさに調べるなら、お前はほとんどが醜いを見いだすことだろう」(アルタルコス「モリア6」より)

こう述べたギリシャの悲劇詩人ソポクレスでさえ、イスラエルのネタニヤフ首相の心の奥をのぞいたなら、ただ「醜い」とだけ断じることに虚しさを感じるのではないか。

ネタニヤフ氏は8月10

日、軍にパレスチナ自治区ガザ市の早期制圧を指示した。ガザでは6万人以上の死者が出ているのに、終戦や復興の展望も示さない。イスラム主義組織ハマスに拉致された人質の救出が危ぶまれ、パレスチナ人の

子どもが一日平均28人というペースで飢餓や爆撃により死亡している。この現状を冷然と眺める心の内面には、驚くほかない。

しかし、初めから心に深い闇があり、戦争を止めれば外から闇の真相を暴かれた。しかし、ネタニヤフ氏

子どもが一日平均28人という脅威を大きく減じた。普通の政治家なら、南のガザ問題を早く処理し、イスラエルに有利な中東の平和秩序を構築する絶好の機会が到来したと考えるはずだ。しかし、ネタニヤフ氏

を追究し、人間が解消しきれぬ闇の奥に迫ろうとした作品である。

イスラエル軍参謀総長を務めたバラク元首相は5月の段階で、ガザ住民200万人の奥に深く根を張るハマスの「掃討」は、軍事作戦として現実的ではなく、再侵攻は「戦略的大惨事」を招くと警告していた。

「闇の奥」とは英作家ジョセフ・コンラッドの小説だ。西洋植民地主義による放埒な領土拡大や現地住民への差別的抑圧の深部にあり、闇だけでない。闇を抱える西洋人たちのさらに奥深く、心性の根底に潜むもの

〈2面に続く〉

地球を読む

1面の続き

山内昌之氏 1947年生まれ。カIRO大学客員助教授、ハーバード大学客員研究員、東大中東地域研究センター長などを歴任。東大名譽教授、ムハンマド5世大学特別客員教授、武蔵野大学客員教授。

「闇の奥」にアラブ差別

ネタニヤフ氏の「闇の奥」には、さらに二つの衝動が潜んでいる。一つは、イスラエルの安全保障強化を名分に国境の外に利益線を作ると、占領地や緩衝地を作る衝動で、「大イスラエル」構想にもつながる。

現にシリアのアッシュカラア暫定大統領に、首都ダマスカス以南の非武装化を求めた。シリアの内地領土と占領中のゴラン高原をつなげ、安全保障の外郭線を北上させるものだ。ハマス排除後のガザにイスラエルと一体の行政体を作り、イスラエル国家を南西に拡大する野心と対をなす。

ヨルダン川西岸のパレスチナ自治区に不法入植を拡

大して、パレスチナ国家の基礎を否定するのも勢力図再編の一環といえよう。

第二の衝動は、イスラエ

外相とウィットコフ米特使は、今春以降、9週間で5回も交渉した。英紙による

ランの核兵器転用を疑って施設を破壊し、核科学者たちを暗殺したという。

この空爆を見たトランプ氏は「奇貨おくべし」とばかりに、ネタニヤフ氏の求めにに応じ、イランのフォルドウ地下核施設などを地下買通型大型爆弾「バンカーバスター」で攻撃した。

ル現政権の「闇の奥」に潜むアラブ民族への激しい差別意識と憎悪である。歴代政権の中でも極端な入植者植民地主義は、パレスチナ人を乳幼児から大人まで過酷な運命に追いやる差別政策の基礎にある。

ネタニヤフ氏は、ガザの徹底した改変とパレスチナ人追放の「功労者」としてイスラエル史に名を残す名

と両氏はトランプ米大統領好みのディールのため、制

ランに停戦を促すためだと正当化し、「無条件降伏」さえイランに要求した。

日本人の中にはトランプ氏が、ボツダム宣言の「無条件降伏」から日本の民主

だが、イスラエルは6月に突然、イランの主要な核開発施設を空爆した。アラ

グチ氏によると、米イラン間に歴史の新たな幕が開かれるのを喜ばないネタニヤフ氏が、イランの高濃縮ウ

ランに停戦を促すためだと正当化し、「無条件降伏」さえイランに要求した。

松の一種テレビンを食べることとは、イランの土地の貧しさへの嘲笑である(「ク

根拠なくイランを見下すのはネタニヤフ氏とトランプ氏の悪い癖だ。アラケチ氏が、イランは7000年続いた文明国家で決して降伏

もあつた。詩人ピンタロスが「国にあつて名譽欲をあま

に「モリア6」より。

一方、イランのアラケチ

米国のイスラエルが、イ

ネタニヤフ氏は、中東での覇権確立を夢想する。それには、中東に残された地域大国トルコの屈服が譲歩が必要だが、シリアの勢力圏分割で合意できなかったように、トルコとの妥協は容易ではない。

そのうえ、ガザの飢餓を機にイスラエルの世界的な孤立状態は深まり、英仏やカナダ、オーストラリアはパレスチナ国家承認の意思を表明した。「大イスラエル」構想への賛同は、せつ

かく関係を正常化したアラブの君主国も怒らせた。

「終わりのない戦争」で敵を作り続け、相手に屈辱感だけ残すネタニヤフ氏の政治手法にゴールはない。

首相に聞かせる声は、コンラッドの「闇の奥」で登場人物が発する、うめくような独白かもしれない。

「地獄だー! 地獄だー!」

英文は金曜日のジャパン・ニュースに掲載予定です